

東北お遍路プロジェクト

初の写真展 津波の記憶、後世に 仙台で8日まで /宮城

毎日新聞 2016年10月6日 地方版



東北お遍路写真展を開催した同プロジェクト理事長の新妻香織さん（右）と村上美保子さん＝仙台市地下鉄東西線国際センター駅2階多目的スペースで

津波の記憶を風化させず後世に語り継ごうと、東北お遍路プロジェクト（福島県相馬市）の写真展が、仙台市地下鉄東西線国際センター駅2階多目的スペースで開かれている。

同プロジェクトを設立したきっかけは、多くの被災者と避難者を生み出した、東日本大震災と東京電力福島第1原発事故だった。「もう一度、福島に人を呼び込むために何をしたらいいのか」。理事長の新妻香織さんは夫の出身地である高知県など四国各地を巡る「お遍路」にヒントを得て、2011年9月に設立した。

現在は福島県と宮城県のメンバー約10人が中心となり、活動を続けている。同プロジェクトは、福島から青森までの沿岸地域の62カ所を「巡礼地」として選定。多くの観光客らに巡礼してもらうことで、復興の後押しにつなげたいという新妻さんは「津波の恐怖を風化させず、1000年後まで語り継いでいければ」と話す。

写真展の開催は今回が初めて。東北（青森・岩手・宮城・福島）の風景や人物、祭りなど東北お遍路にまつわるものをテーマに、プロアマ、国籍問わずに募集した。審査員は写真家の斎藤康一さんや青柳健二さんなどが務めた。会場には、「青い鯉（こい）のぼり」のイベント風景を切り取った写真など60点が展示されている。新妻さんは「被災地の人たちに見ていただき、未登録の場所を推薦してほしい。一緒に『東北お遍路』を育てていきたい」と話す。

写真展は入場無料。8日まで。問い合わせは東北お遍路写真コンテスト事務局（0244・64・2042）。また同プロジェクトは現在、巡礼地のガイドブック（日本語版と英語版）を制作中で、来年3月に被災4県に配布する予定。【升谷志摩】